

◆イスラエル軍によるガザの人々の虐殺が続いている。十月七日以降の新聞は、見出しも写真も残酷すぎて正視することができない。イスラエルは正々堂々とパレスチナへの蛮行を繰り返している。怒りが込み上げる毎日だ。最近読んだ文章の中で、「世界」二〇二三年三月号の「『人権の彼岸』から世界を観る」（岡真理 著）が最も印象深い。「この一年、ロシアの侵略に対する非難とウクライナの人々に対する共感がメディアに溢れ、平和学習がとにかくに興隆した。かたや中東のメディアに溢れるのは、欧米諸国の二重基準に対する批判だ。侵略を非難し、その犠牲者に共感するのは正しいが、平和を唱えながらこの二重基準の問題を等閑視することは、平和よりむしろその破壊を援けるものである」と論考は続く。欧州ではウクライナ難民は受け入れるがシリア難民は拒絶、というように人種差別は植民地主義の時代と変わらない。メディアはガザでの大規模な攻撃があった時しか報道しない。日本のほとんどのメディアも欧米に右ならえなのは嘆かわしい。プーチンを悪者にするのなら、欧米の二重基準も同じくらい問題にしなければならぬと、岡さんは主張する。その通りだと思う。今も世界のどこかで蔑まれた民衆が蹂躪されている。私たちに何ができるのか、途方に暮れるこの頃だ。

新野祐子

## 編集後記

◆イスラエルのガザ攻撃に怒っていたら、日本の二〇二四年はたいへんな幕開けとなった。一日は能登半島で大地震、二日には羽田空港で日本航空と海上保安庁の航空機同士の衝突事故。ニュースを追うだけで精一杯。気持ちが付いていかない。能登の地震では当初、七尾市にいる知人の安否がわからなかった。四日になって、ケータイも何も持たず近くの高校に避難していることが確認できた。が、なんともこの寒空が恨めしい。

能登半島には志賀原<sup>しか</sup>発があり、そちらも気になっていた。北陸電力は正確な情報を出さず、小出しに訂正している。やはり不具合が出ており、津波も来ていたのだ。元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章さんへのインタビュー記事を紹介したい。

「小出裕章が語る能登地震と原発」

<https://note.com/kuwa589/n/nf745c45cb244>

この災害のあとに政府が何をもち出すか、気をつけたほうがよさそうだ。110号の新野祐子さんの次の句が、いみじくも警告を発している。ショック・ドクトリンとは、社会に壊滅的な惨事が発生した直後に、人々が茫然自失している時をチャンスと捉えて巧妙に利用する政策手法だという。

『シヨック・ドクトリン』地図を広げつつ読む日永

\*ナオミ・クライン著『シヨック・ドクトリン——惨事便乗型資本主義の正体を暴く』

さて、同人・市川茂子さんのことをお伝えしなければならぬ。昨年十二月、甥の方から電話をいただいた。市川さんは十一月半ばごろから入院し、その後、亡くなられたそうだ。「展景（の歌）にあった屋形船と一緒に乗った甥です。みなさんにもよろしくお伝えください」とのことだった。市川さんは秋田県出身で、東京の板橋区に長く暮らした。展景の最初の主宰者・布宮みつことは板橋区短歌連盟で知り合ったと聞いている。みつこを先生と呼んで第25号から参加し、ずっとお付き合いをしてくれた。九十歳になるころだろうか、原稿が来るたびに覚悟のようなものが感じられた。お連れ合いを亡くしてから一人暮らしを続けて、立派な最期であったと思う。享年九十一。市川さん、本当にありがとうございました。

◆「展景」の冊子は今号で終わり、これからはインターネット版のみとなります。

〈おすすすめ本〉

・『ホロコーストからガザへ——パレスチナの政治経済学』（サラ・ロイ、岡真理・小田切拓・早尾貴紀編訳、青土社、二〇〇九）

（著者のサラ・ロイは、ホロコースト生き残りのユダヤ人を両親にもつ。イスラエルによるパレスチナの占領体制をガザ地区に焦点を当て経済面から詳述。読者として、前半はよくわかるが少し難しい。ところが後半になると俄然ひき込まれる。特にサラ・ロイと徐京植ソッキョンシクの対談では相互に深く語られる。著者は、個別的なものと普遍的なことをともに結びつけることが最も重要だという。パレスチナ問題が肌感覚でわかり、最後まで読み通した。本を読んでも虐殺を止めることはできないが、理解の助けにはなる）

・『理想の父にはなれないけれど』（じゃんぼる西、KADOKAWA、二〇二二）

（フランス人妻との間に男児二人を授かった漫画家の著者。子どもたちの成長を父親の目線で描いた子育てコミックエッセイ。子どもを素直に観察するところなるか、と楽しく読める。妻はジャーナリストの西村カリンさん）

（布宮慈子）

# muninokai.com

上記のサイトでは、フルカラーのオンライン版「展景」を公開しています。  
61号からのバックナンバーも読むことができます。

季刊展景  
112号

二〇二四年一月二十日 発行

編集・発行人 布宮慈子

制作 スタジオ・マージン

無二の会「展景」発行所

山形市上町二―一―七―二〇二

[info@muninokai.com](mailto:info@muninokai.com)